

出来る限り、以下の様式に沿った議事録を作成下さいますようお願いいたします。

(様式2)

議事録番号

提出 平成28年 9月 2日

会合議事録

研究会名：ソフト界面科学研究会

日時：平成28年8月29日 10:00～12:00

場所：関西学院大学・三田キャンパス・Ⅶ号館113教室

出席者：(議事録記載者に下線)

高橋 功(関西学院大理工)、今井洋輔(九大基幹)、宇留賀朋哉(JASRI)、
谷田肇(日産アーク)、亀山愛樹(近畿大)、西尾孔明(関西学院大理)、
阪口文哉(関西学院大理)、小西真晶(関西学院大理)、片口 良(関
西学院大理)、鳴川啓輔(関西学院大理)、瀧上隆智(九大基幹)

計11名

議題：最近の研究紹介(2件)および意見交換

議事内容：

ソフト界面に関する研究動向について研究会メンバー間での情報共有を目的に、以下のプログラムに沿って研究会会合を開催した。

【プログラム】

10:00～10:10 主旨説明(瀧上隆智)

10:10～10:50 講演1(今井洋輔先生/九州大)

「全反射XAFS法を用いたソフト界面吸着膜の対イオン結合度に関する研究」

10:50～11:40 講演2(高橋 功先生/関西学院大)

「X線表面散乱を用いた高分子薄膜の結晶化・ガラス転移現象の観察」

11:40～12:00 意見交換

「新分野、新領域に関する研究開発ニーズの収集」「研究開発成果の展開について」

今回の会合では、ソフト界面科学分野での重要な研究の一つである「水溶液表面でのイオンの水和構造」に関する全反射 XAFS 法を駆使した先端研究の紹介、「高分子薄膜の結晶化構造やガラス転移」に関する X 線反射率法に基づいた最新の研究動向について講演頂き、闊達な意見交換がなされた。特に対イオン結合に関する新規な振舞い、生分解性高分子薄膜における結晶構造、ポリスチレン薄膜のメモリー効果など、極めて興味深い研究内容であった。また、今後の研究展開・協同研究の方向性、新たな研究対象への適用性、新手法の展開についても意見交換を行った。